

平成21・22・23年度福岡市教育委員会研究指定 研究発表会研究紀要

福岡市立当仁小学校
平成23年10月6日(木)

1 研究主題について

本校のめざす子ども像 **仁と^{えいしん}盈進の心をもった子ども**
思いやりの心もち、一步一步ねばり強く学び続ける子ども

研究主題

読むことの楽しさや価値を実感できる子どもの育成
—書く活動を焦点化し、話し合いを活性化する手立ての工夫を通して—

1 子どもの実態から

- 読みの学習で、みんなと話し合っ
てよかった：85%
- 自分の考えを進んで発表している：59%

2 本校の学校教育目標から

- 仁と盈進の心をもった子どもの育成

3 教育の動向から

- 新しいふくおかの教育計画
- 新学習指導要領

4 本校の研究のあゆみから

- 平成19年度本市研究指定発表会 話す・聞く
- 平成20年度 読むことの学習の基礎・基本
- 平成21年度より 本研究テーマ

2 研究の目標

読むことの楽しさや価値を実感できる子どもを育成するために、書く活動を焦点化し、話し合いを活性化する国語科学習の指導法を明らかにする。

3 研究の仮説

文学的な文章の読みの学習において、書く活動を焦点化し、交流に少人数による話し合い(かっぱタイム)を位置付けて、話し合いを活性化する手立てを工夫すれば、読むことの楽しさや価値を実感できる子どもを育てることができるであろう。

4 研究の内容

I 読むことの楽しさや価値を実感する単元構成の工夫

II 読むことの楽しさや価値を実感する学習過程の工夫

III 読むことの楽しさや価値を実感するための
書く活動の焦点化、話し合いの活性化の工夫〈焦点化、可視化、共有化〉

5 研究構想図

目指す子ども **仁と盈進の 心をもった子ども**

読むことの楽しさや価値を実感する子ども

単元構成の工夫
学習過程の工夫

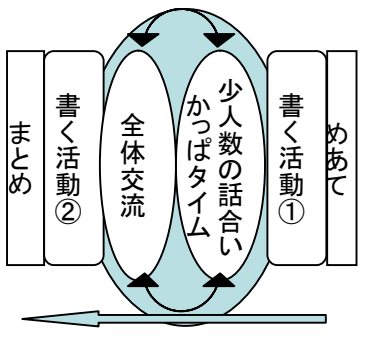
書く活動の焦点化
話し合いの活性化の工夫

学びの
ジャンプ

自分の生活に生かす

読みをまとめる

読み深める



学習計画を立てる

読みのめあてに対する
初めの考えをつくる

読みのめあてをつくる

学習のかまえをつくる

表現から
人物の深い
心情を読み
取り、自分の
生き方につ
いて考え
ている。

人物像を読み
取り、感じ取
った感想や感
動を次の学習
や生活に生か
そうとしてい
る。

人物の行動を
中心に想像を
広げながら読
んでいる。

創る
かつば
タイム

訊き
合う
かつば
タイム

楽しい
かつば
タイム

みんなができる・みんなで考える

焦点化

書く内容の焦点化
交流の内容の焦点化

・書きまとめ方の工夫
・話し合いの視点の明確化
・焦点化する発問

サイドライン ふきだし
キーワード イメージマップ

可視化

学ぶ内容が見える
学ぶ方法が見える

・学習プリントの工夫
・思考の流れが見える板書
・学習の流れ図の掲示

付箋紙 シールの活用
動作化 キーワード イメージマップ
ふきだし

共有化

学ぶ内容の共有
学ぶ方法の共有
学び合いのよさの共有

・学習プリントや板書で
・全体で、少人数で
・対話相手を変えての相互交流「旅」

発表で

子どもの実態・生活

学校・家庭・地域

6 研究の考え方

Q 1 読むことの楽しさや価値を実感する姿とは？

想像を広げて楽しんだり、新しい発見をしたりしながら、自分の学びが広がる、友達と学びを共有している。このお話を読んでよかった、自分の役に立ったと感じ、自分の生活に活かしていこうとしている。そうして自分が変わる、自分のくらしが変わる姿のことです。

低学年：作品の中に入り込み、人物の行動とそのわけを読み取りながら想像を広げる楽しさを味わっている。
 中学年：人物像を読み取り、感じ取った感想や感動を次の学習や生活に生かそうとしている。
 高学年：表現から人物の深い心情を読み取り、自分の生き方について考えている
 特別支援学級：学習で学んだ言葉を生活の中で進んで使っている。

Q 2 書く活動を焦点化し、話し合いを活性化する手立て（焦点化、可視化、共有化）とは？

焦点化：めあてに対してどの子どもも考えをもつことができるように、「いつ」「何を」「どのように」書いて、「何を」話し合わせるのか、明らかにした学習を創ります。

「〇〇について明らかにしたいなあ。」

「〇〇について話したいなあ。」

可視化：みんなで考えることができるように、自分なりの考えが周りの友達にも見える学習プリントを工夫し、全体の思考が見える板書や掲示物を工夫します。そして、学習の方法や手順を示し、学ぶ内容や方法がどの子どもにも見えるようにします。少人数で話し合う時には、学習プリントを見せ合ったり、付箋紙やシールを貼ったりしながら話し合わせます。



可視化



共有化

共有化：全体交流とともに、2人で、3人でなど、少人数での対話活動「かっぱタイム」を取り入れ、みんなで考えを共有できるようにします。

☆「みんなができる みんなで考える」ための特別支援の視点を生かした取り組み

発言の参考になるモデル提示、学習プリントの工夫（ルビ付き、拡大など）、選択肢の提示など《1時間の学習展開》～考える箇所を焦点化し、創った考えを可視化し、共有化する～



Q 3 かっぱタイムとは？

少人数による話し合いの場です。子どもたちが課題解決に向けて、自分の考えと友達の考えを比べ、重ねたり分けたりしながら違いのよさを受け止め合います。考えがより確かになったり、曖昧なところがはっきりしたりして、全体での交流にのぞむことができます。これからの時代を生きていく子どもたちに必要な力である「互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力」を育て、子ども同士が学び合い、高め合う場にしたいと思っています。



かっぱタイムの様子

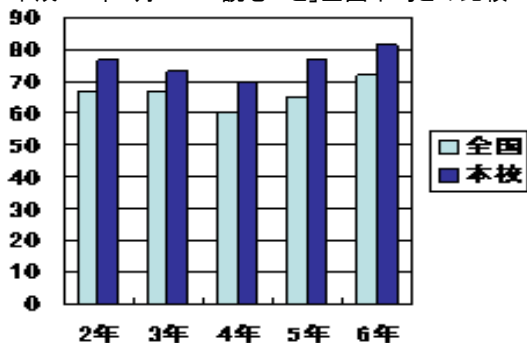
7 研究のまとめ

(1) 成果と課題

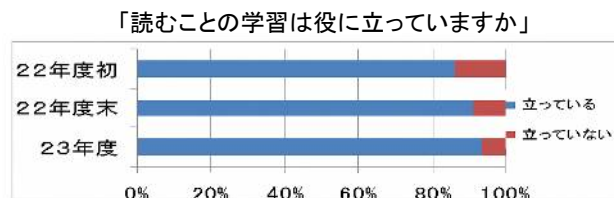
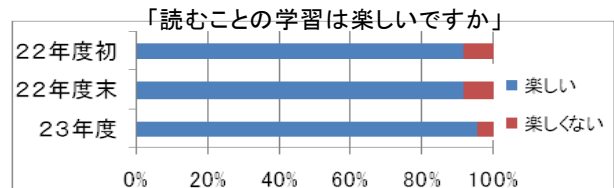
子どもの姿から

【学力テストの結果から】

平成23年4月CRT「読むこと」全国平均との比較



【子どもへのアンケート調査から】



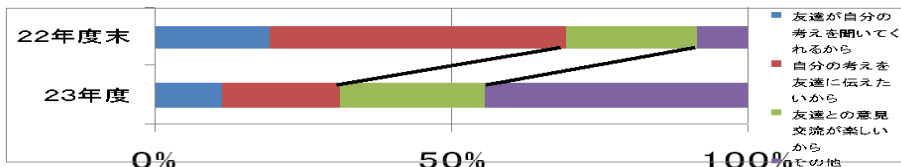
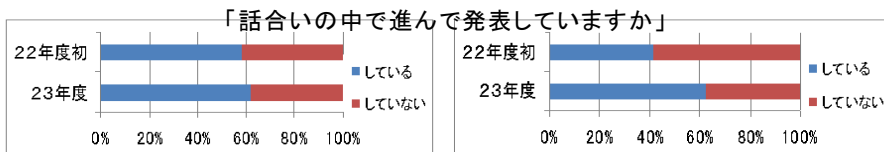
- どの学年も「読むこと」の領域で全国平均を約9ポイント上回っている。

- 「読むことは楽しい、役に立っている」と答えている子どもが増えている。

研究の内容から

【単元構成・学習過程の工夫から】

- 子どもへのアンケート調査の結果、読むことの学習が役に立っていると答えた理由に、低学年では「読み方が分かるから」「その人の気持ちが分かるから」、高学年では「他の本も読んでみようと思うから」「使える言葉が増えるから」「主人公の生き方を知ること、自分の生活やこれからについて考えることができるから」「作者の表現の仕方や工夫が分かるから」が挙げられている。学習の意義を実感させるうえで、自分の生活やこれからにつなぐ学習の構えを持たせた単元構成の工夫が有効であった。



- 進んで発表していると答えた子が僅かながら増えている。「近くの人と話す全体で発表しやすいから」「みんなが共感してくれる」「うなずきながら聞いてくれたり、反応してくれたりするから」と、かっばタイムが、互いに質問したり、教え合ったり

しながら、互いのよさを共有する場として有効であった。

【焦点化、可視化、共有化の手立てから】

- どの場面で何をどのように書かせるのか焦点化することが、深め合う話し合いにつながり、何をどのような方法で話し合わせるのか課題を焦点化し、考えを共有するための方法として、学習プリントや板書で可視化していくことが重要であることが見えてきた。



- 焦点化がカギである。学ばせること、考えさせたいことを明確にするための教材研究、発問を磨きたい。
- どのような学習プリントや板書であれば共有化につながるのか、共有化のための話し合いをどのようにすれば効果的であるのかさらに工夫を重ねたい。

(2) これからの方向

- 学習過程の各段階における三つの視点「焦点化・可視化・共有化」について、さらに系統的、具体的な方法を明らかにすること
- 指導事項を時数との関係の中で系統的、段階的に確かに身に付けさせていくことができるように、どの単元で、どんな力をつけるのか明らかにした年間カリキュラムを作成すること
- 考えの交流の場である少人数の話し合いの在り方を工夫し、子どもたちが自ら学ぶ学び合いを展開する学習づくりを目指すこと